

慈 恵

めぐみ

鎮西敬愛学園通信

No. 87 2021 年 秋号

敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒 800-0035 北九州市門司区別院 6 番 1 号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒 800-0057 北九州市門司区大里新町 1 1 番 7 号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601



2021.10.28

合唱発表会

門司市民会館にて

ことば

道のありがたみを知っている者は
道のないところを歩いた者だけだ

大島亮吉

日々、何気なく過ごしている私たちの暮らしも、さまざまな支えがなければ成り立ちません。周りを見ると、それがなければ今の生活が持続できなくなるようなものがたくさんありますが、私たちはそれを失ってからでないと、その有り難さには気づかないようです。

「有り難う」の反対は「当たり前」。当たり前と思うところには、感謝の気持ちは生まれません。目の前にある結果のみならず、そこに至るまでの過程に思いを致すとき、初めてその意味や価値を知り、有り難さを感じるのでしょうか。私が歩む人生は、私自身で切り拓いていく道のりです。それ故、困難に直面し、悩んだり迷ったりすることも多々あります。でもそれは、新たな道を求め、前に進もうとしている証でもあります。そこには、先人が残してくれた道標があり、どんなときも私に寄り添い、支えてくれる人たちがいます。私の進むべき道を照らし見守り導いてくれる存在があるから、苦悩も乗り越えていけるのでしょう。そしてそのときにこそ、このいのちの営みを可能ならしめる存在に対する有り難さを実感するのだと思います。

どのような道を歩もうとも、今ここにあるいのちは決して当たり前ではありません。いのちを見つめ、いのちと向き合うことによって気づかされるいのちの真実。それは、脈々と受け継がれ、あらゆるものとの関わりの中に私が生かされているということ。私のいのちが、無量のいのちに包まれ育まれながら、今ここに息づいています。そのことが何よりも有り難く尊いこととして、感謝の思いを忘れずにいたいと思います。

宗教科 谷川宏済

中学合唱発表会

10月28日（木）に、門司市民会館で中学合唱発表会を開催しました。例年に比べ、練習時間が短く、限られた時間でしたが、各クラスが工夫して練習を行っていました。当日も、新型コロナウイルスの感染予防のため、マスクをしたまま、間隔を広くとつての課題曲と自由曲の披露となりました。普段とは違った大ホールでの発表会に、特別感を感じるとともに、練習の成果を最大限に発揮し、ハーモニーを響かせることができました。

今年は、練習期間が短く、コロナ禍であったのでマスクをつけ、十分な距離をとり換気をしていた練習でした。最初の練習では、声を出しづらく音取りが上手くいかなかったため、去年よりも良い合唱ができないのではと思われました。けれど、だんだん練習に熱が入り、音楽の先生から指導されたことだけでなく、自主的に気をつけることを見つけ練習をしました。

本番の日、ステージに上がると今までの緊張は無くなっていました。前日のリハーサルよりも笑顔で綺麗なハーモニーをつくることができました。また、私は3年間指揮を担当しました。主旋律に気をつけ、みんなの合唱に合わせて表現をする練習をしてきました。指揮をするときにみんなの顔を見ると自然に落ち着くことができ、私は笑顔で指揮をすることができました。一致団結できたのは、目標に向かってみんなで懸命に取り組んだからだと思います。最後の合唱発表会で最優秀賞をとることができとても嬉しかったです。

最優秀賞 中学3年1組
山崎 愛里（大里柳小出身）



最後の合唱発表会で初めて入賞することができて嬉しかったです。私は、「手紙」の伴奏を担当しました。伴奏者と指揮者は昼休みに音楽室に毎日練習をしに行ったり、放課後にみんなで練習をしたりして、全員が一生懸命でクラスで団結できたので、良かったです。「手紙」の伴奏でみんなの前で弾くときに、途中で止まったりすることもありましたが、ピアノが止まっても歌い続けてくれて嬉しかったし、自分ももっと頑張ろうと思えたので、みんなに感謝したいです。伴奏をしていて、最初の頃の練習と本番でのみんなの歌声が倍以上で聞こえてきて、驚きました。また、「STORY」の曲では、先生に言われたところを本番で意識して歌うことができて、今までで、一番良い合唱ができたと思います。ずっと思っていたように合唱発表会になって良かったです。

優秀賞 中学3年2組
日高 結優（門司海青小出身）



僕がこの合唱発表会で学んだことは、「自信をつけることの大切さ」です。なぜなら自信をつけることはその後の行動につながると思うからです。何か一つでも自信になることを作ることで人はかなり変われると思います。将来の夢や、高い目標の達成を志す過程で、困難なことや、前向きに取り組めないこともあるかもしれません。そのような状況下でも、積み重ねが必要であり、その積み重ねの中で自信をつけていくことが必要だと思います。練習が始まったばかりの時は恥ずかしいな、つまらないな、面倒臭いなどと思っていた自分が、嫌々ながらも一歩を踏み出したことがきっかけとなり、毎日の練習の中で自信が生まれ、またそのもう一歩先の高みを目指すことができました。さらにクラスメイト一人一人の積み重ねがあつて優秀賞という結果になったと思います。勉強、スポーツ、趣味なんでも良いから「自信をつける」きっかけを掴むために様々なことに挑戦していきたいです。

優秀賞 中学1年1組
柳田 侑呈（敬愛小出身）



千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

浄土真宗本願寺派では、戦争によって尊いいのちを失われたすべての方々を追悼し、悲惨な戦争を再び繰り返してはならないという平和への決意を確認するため、毎年、「全戦没者追悼法要」を勤修しています。この法要では、全国の宗門関係学校の中学生・高校生から「いのちの尊さ」「非戦・平和の大切さ」をテーマに作文を募集します。

今年は中学生の部で、本校3年生の平山さんの作品が優秀賞に選ばれました。

あたりまえの毎日に、ありがとうを

敬愛中学校 3年 平山 璃音(敬愛小出身)

もし今「あなたは自分の命を大切にしていますか。そして他人の命を大切にしていますか。」と聞かれたらどう答えますか。きつと多くの人が「はい」と答えるでしょう。けれども、本当にそうでしょうか。

SNSでは、「死ぬ」「消えろ」などの言葉が交わされるのを目にします。また、世界中にはたくさんの方が、いじめや差別に悩んでいると思います。それによって自殺を考える人も少なくありません。自分の命や他人の命を本当に大切にできている人はほんのわずかなのではないのでしょうか。そう考えるようになったきっかけは、小学校から受けている宗教の授業です。低学年の頃は、いのちの大切さなど全く分からず、あたりまえのように生きていました。それが高学年になるにつれ、授業を通して深く考えるようになりました。私は今8年間宗教の授業を受けてきましたが、すごく心に残っている言葉があります。「あたりまえの反対はありがたい」。この言葉を聞いて自分の人生の見方が大きく変わりました。毎日食べているごはんやパン、毎日通っている学校、外で遊んだり習い事に行けたりすること、全てあたりまえのように思っていました。でもそれは友達や先生、そして家族、他にも数えきれないほどの人のおかげで生きることができています。そんな毎日は長く続かないと不安になることもあります。

命には限りがあり、死はだれにでも訪れます。生きている間、私の人生において、その人の存在がどれだけ大きいのかは、なかなか気づくことができません。だから、大切な人と過ごせることをあたりまえだと思わず、「ありがとう」という言葉を大切にしようと思います。命はたった一つしかない宝物です。私の命はだれも代わることができない。また、だれかの命も私には代わることができない。だからこそ自分の命は自分が一番大切にしなければならぬと思います。

「あなたは自分の命を大切にしていますか」「他人の命を大切にしていますか」という質問に胸を張って、「はい」と答えられる私でありたいです。

高校1年生 総合的な探究の時間

高校1年生の総合的な探究の時間では、SDGs地域企業連携プロジェクトと題した探究活動を行っています。生徒自らがニュースや地域企業、SDGsなど様々な観点から地域や社会の課題を見つけ、そして解決策を提案します。

10月22日(金)には、探究活動の参考にするために、自分たちのテーマに関連する企業や学校、団体等に訪問して直接質問をするフィールドワークを行いました。訪問するにあたって、生徒たちは訪問先に電話をして、その趣旨を伝えました。

現地で生徒たちは、事前に考えていた質問をたくさんしていました。その回答を聞くと同時に、企業の方々の思いも感じる事ができ、今後の探究活動を深めていく大きな経験となりました。

現在は、11月下旬に迫った発表動画の作成締め切りに向けて取り組んでいます。その後、12月にはゲストティーチャーをお招きしての発表が予定されています。各グループとも発表に向けて精一杯取り組んでいます。



第4回 KEIAI EXPO開催

新型コロナウイルスの感染防止に十分配慮し、Keiai Creator's Exposition（略称 KEIAI EXPO）を10月16日に開催いたしました。緊急事態宣言の影響で、短い準備期間となりましたが、どの学年も工夫をしながら準備を進め、無事EXPO当日を迎えることができました。

1年生は保護者をお招きしてのお茶会。2年生は、生活科で栽培した野菜販売。3年生以上は、クラスや小グループに分かれてのプレゼンテーションです。3年生は、本の魅力を語り合うビブリオトークバトル。4年生は三井住友信託銀行様にご協力いただき、SDGsについて動画を使つての発表。5年生は夏休みの自由研究をクラスやグループで研究を深めた発表。6年生はキャリア教育学習の発表です。



どの学年も工夫を凝らし、立派にやり遂げる事ができました。発表後の子どもたちの達成感溢れる表情がとても印象的でした。

EXPO内で開催した学校保護者会バザーも、PayPayを活用した電子決済を活用するなど様々な工夫を行い、盛会のうちに、閉会することができました。

久しぶりに保護者同士の交流も行うことができ、色々な制約がありました。実りある学校行事となりました。このEXPO開催にご尽力いただきました保護者・企業の皆様、ご協力を賜り、誠に有難うございました。

修学旅行

コロナ禍で延期していた修学旅行を、広島方面に変更をして、10月23日、24日に実施しました。平和記念資料館や原爆ドームでは、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、広島別院ではご法話を通して、私たちの生活を見つめ直すご縁をいただきました。

世の中に当たり前のことは一つもありません。平和な日常に存在する「有り難いこと」に気づき、感謝の心の大切さを改めて学ぶことができました。修学旅行となりました。



特集 敬愛の教育 緊急事態宣言下のオンライン授業

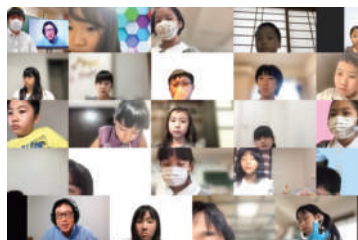
8月末。デルタ株が猛威を振り、未だかつてないスピードで感染が拡大しました。政府分科会でも学校内での感染の危険性が指摘され、本校では8月30日から9月18日までを臨時休校とし、オンライン授業を行うこととなりました。

誰もいない教室で、先生がiPadに向かって授業を進めます。本校では、いつ感染が急拡大しても対応できるように、昨年度のオンライン授業後も、準備を進めてきました。子どもたちの話し合い活動を促すために、プロジェクトとデジタルシンキングツールを使って授業を進行したり、ブレイクアウトセッションを使って話し合い活動を行うなど、昨年度の経験を活かしながら、工夫して授業を進めていきました。

3年生社会科のスーパーマーケット訪問の授業では、近隣のスーパーと児童の家庭をオンラインで接続し、店長さんから店舗の工夫についてお話を伺いました。児童の質問にも一つひとつ丁寧に回答いただき、実際の店舗の雰囲気も伝わってきて、オンラインの特性を活かした臨場感のある学習となりました。

また、臨時休校中の放課後の時間には、自由参加のKeiai Channelを開設。プログラミング講座や動画作成講座をはじめ、お菓子づくり講座や似顔絵講座など、先生たちの得意分野を活かした体験講座も行いました。

いつ新しい変異株が猛威を振るって、臨時休校になるかわからない世の中です。本校では、これからも効果的なオンライン活用法を研究・実践して参ります。



幼稚園通信

お出かけが盛ん

緊急事態宣言が解除されたことから、少しずつ、園バスに乗ってお出かけをする機会が増えてきました。園外へのお出かけは、特別感があり、子どもたちは楽しく過ごしていました。

水族館・動物園

水族館や動物園では、いきものを観察したり、触れ合ったりすることで、同じ命を生きていることを体感し、生かされている自分に気づくことができる大切な時間となりました。

戸ノ上山登山

戸ノ上山の麓に建つ敬愛幼稚園では、毎年、年長児が戸ノ上山登山にチャレンジしています。今年は良いお天気が続き、土が乾き、滑りやすい山道でしたが、自分の持っている力を一杯出して登頂することができました。成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める取り組みを行っています。

芋掘り

芋掘りに行き、大きな芋にびっくりし、土の中の生き物を追いかけ、自然との触れ合いを楽しみました。敬愛幼稚園の子どもたちの為に、芋畑をお世話してくださっている方がおられ、お力添えに感謝するばかりです。おかげ様で子どもたちは貴重な体験をさせていただき、「おかげさま」を感じる時間です。



長野緑地

前日運動会だったこともあり、年長さんは、広い長野緑地で開放感あふれる遊びを存分に楽しみました。秋空の気持ちの良い自然の中、季節を感じ、友だち、先生との絆がより深まったようです。

スケッチ遠足

絵画教室の先生と共に、農事センタ―へスケッチ遠足に出かけました。実物を見ながら、自然の中でダイナミックに絵を描く経験を通して、五感を刺激し新しい感覚を得ながら自分の思いを表現する心地よさを体感してくれたことと思います。



なつまつり

夏真っ盛りの八月、なかなか行えなかった行事ですが、外ということもあり、子どもたちが楽しみにしている「なつまつり」を行いました。



浴衣や甚平に身を包み、かわいらしく登場してくれた「けいあいっこ」たち。金魚すくいを楽しんだり、盆踊りをみんなです踊ったりして、楽しい時を過ごしました。我慢の多い時間を過ごしてきた子どもたちが、親子一緒に楽しめる行事を通して、瞳の輝きが増していた姿を目の当たりにし、嬉しく感じたひと時でした。

第44回運動会

昨年同様、今年度も学年で分散しての運動会を開催しました。広いグラウンドに、分散しての開催とのことで、人数制限は設けず、祖父母様、ご親戚一同、たくさんのお客様の元、運動会を盛大に行うことができました。どの競技も練習の成果が発揮され、子どもたち一人ひとりが目標としていた到達点に達し、たくさんの方からたくさん褒められていた子どもたち。その晴れやかな表情は周りの大人を幸せにしてくれます。大きな経験を通して、成長できた、大切な思い出となった一日でした。



たまごくらぶミニ運動会

未就園児の親子サークル、たまごくらぶで、体操の先生と一緒にミニ運動会を行いました。入場行進から始まり、かけっこや玉入れ、綱引きなど行い、親子で楽しい時間となりました。たまごくらぶへの入会希望の方は、ホームページにてご案内しています。



法話

浄土真宗本願寺派
本通寺（北九州市） 副住職

禿河大暁師



「感恩の生活」

私は足立山の山の中にある本通寺というお寺で副住職をしております。足立山には様々な野生動物が生息しており、まるで昔話のようなサル、イヌ、キジ、イノシシ、たぬき等、挙げればきりが無いほどの動物と共に暮らしています。特にイノシシは毎日のように山から下りてきては、お寺や付近を荒らして回ります。何かあれば全てほじくり返され、植えた花の種や球根まで食べられてしまいます。以前、門司で砂防ダムにイノシシが落ちて、食べるものがない衰弱していく姿が、連日全国のニュースに流れるという事がありました。門司の担当者に聞いたところ、全国から五百件を超える「助けてあげられないか」との要望があったそうです。しかしその中で五件ほど、処分してくれる電話があったそうです。その五件とも、地元からの電話であったそうです。

我々はいかに自分の都合だけで物事を考えるのでしょうか。都会の人にとつてはとても珍しく、動物園でも見ることができない貴重なものに見えたかもしれません。イノシシの命を大切に保護するべきだと考えたのでしょうか。逆に地元の、普段から被害に遭っている方からは害獣であり、危険でもあり、また山に放たないで欲しいという気持ちがあるのだと思います。前者の方々と同じ立場であったなら、保護を最優先に考えられたでしょうか？この事を通して、我々はいつても自分の勝手な立場から物事を考え、自己中心的に行動していることに気付かされます。

では、お念仏の教えを聞かせて頂く私たちは、どのように考え、どのような生活を送るべきなのでしょう。

ある時、うちのお寺のすぐ裏でイノシシ用のワナに野犬がかかるといふ事がありました。ちょうど隣の家の娘さんがそれを発見し、その時には罠が外れずに暴れたせいで既に酷く足に食い込み、野犬の悲痛な鳴き声と、それを心配する仲間の野犬の群れが周りを取り囲んでいたそうです。野犬もイノシシと同じく、山では人間にとつて非常に危険な存在です。しかし、そのあまりに可愛そうな状況に、その娘さんはすぐに家に

道具を取りに帰り、勇気を持って助けに行ったのです。初めは犬も暴れ、周りの野犬の群れが威嚇してきて、いつ襲われてもおかしくない状況であったそうです。それでも優しく声をかけ、時間をかけて近付き、どうにか罠を切り、外してあげました。翌日、沢山の野犬がその娘さんの家を取り囲みました。何をするわけでもなく、ただ家を見つめ、ただじつと座っていました。一見恐ろしい状況ですが、これは襲いに来たわけではありません。昨日の罠から救ってくれた恩を感じ、それに報いようと沢山の野犬が集まったのです。昔話に伝わるようなこの状況も、実際にこれと同じ様な事があって、そこから生まれた話なのかもしれません。

我々はこの野犬のような感じ方が出来ているでしょうか。ただ過ごしている毎日の中に、多くのご縁やご恩を頂いております。野生の動物でさえ、自分を救おうとしてくれた事を知り、恩を感じ、それに報いようとしています。その姿に自身の生活を照らされ、教えられた様な思いです。そしてそれに気付かせてくれた野犬たちの有り難い姿にまた感謝し、お念仏申すばかりで御座います。

合掌

さまざまな活動の成績

放送部

福岡県高文祭放送コンテスト
アナウンスの部 第2位
高校2年 中村 優理子（敬愛中出身）

朗読の部

入賞
高校1年 仲 花菜代（名陵中出身）

報道研究部

第3回全九州高等学校総合文化祭 写真部門
福岡県予選 佳作 高校3年 大丸 智奈（敬愛中出身）

個人発表

第32回シヤロンカップコンテスト英語暗唱大会

優勝 中学1年 渡辺 悠平（敬愛小出身）

高円宮杯 第73回全日本中学校英語弁論大会 福岡県大会

4位 中学3年 山口 晃ノ介（敬愛小出身）

中学新生徒会長紹介

敬愛に新しい風を吹かせます！

中学1年 橋村 直樹（敬愛小出身）



本年度の中学生徒会長を務めさせていただきます。中学一年生の橋村直樹です。僕の目標は、生徒のみなさんの学校生活をより豊かにすることです。そのため「生徒会へのメッセージボックス」などを使って、生徒のみなさんの意見に耳を傾けていきたいです。生徒のみなさんとともに良い学校を作りたいと思います。今年の生徒会執行部は一年生が多いので、元気の良さや行動力を発揮しつつ、また、二年生の先輩方の経験値も生かして、生徒会活動をしていき、学校を支えていきたいと思っています。生徒みなさんの期待に応えられるように、生徒会が一元となつて頑張っていきたいです。一年間という短い間ですが、よろしく願います。

卒業生からのメッセージ

平成28年度卒業 森繁 麗加さん



在校生の皆様、こんにちは、森繁麗加です。卒業後は大分県の立命館アジア太平洋大学に進学し、現在は茶人として日本国内や海外へお茶の時間を届ける活動をしています。国内での主な活動はカフェの営業や旅館での出張茶会、別府医療センターでのマインドフルネス研修などです。海外ではスイスのお茶専門店に日本茶の提案をしています。お茶を味わったお客様が自分と向き合った



り、無になったり、思い出に浸ったり、誰も予測できない心の変化をお客様と共に味わい楽しんでいます。

お茶というと抹茶や緑茶というイメージが強いかもしれませんが、私がお届けしているのは急須で淹れるお茶全般です。昔は身近にあり家族団欒の場にはそつと寄り添っていたお茶の魅力をこれからも忘れず伝え残していくため、茶農家や淹れ手の先輩方々から日々学びつつ現代ならではの表現を取り入れています。

私にとってお茶を淹れるということとは生きるということであり、それを全うしてこそ心に届けることができると信じ、日々をお茶と向き合っ



ています。鎮西敬愛学園では仏教の授業で「縁」についてよく触れることがありました。私たちが出会う言葉や人、自分の感情など、どの瞬間も一期一会です。お茶の活動をしていく中で、「縁」を大切にしてきて今の私があることを実感できております。

私自身高校生の時は勉強に向き合う日々で、どう生きたいか自分に問いたです余裕はありませんでした。大学生活の中で将来像が見えず四苦八苦し、ご縁でお茶に辿り着きました。生き方に正解はなく優劣もつける必要はありません。周りの人の中には頼りつつ自分のペースで歩めばよいと私は思います。在校生の皆さんには、どの大学に行くかだけではなくどんな人生を歩みたいかを想像してみたいです。何者かになる必要もなくただ貴方が貴方らしく笑っていられる生き方がきっとあると思います。



人工衛星宇宙へ

理科研究部が「不可能を可能に」を合言葉に、人工衛星を宇宙に打ち上げるプロジェクトである「Project S」を令和元年からスタートさせました。そのプロジェクトの始まりは、2012年に遡ります。部員たちが宇宙に人工衛星を打ち上げたいという思いを元に研究がスタートし、缶サット甲子園という人工衛星を打ち上げる上で必要な技術や経験を学ぶ大会に出場しました。その後、全国大会にも出場したり、賞をいただくこともできました。理科研究部に所属していた大谷さんが九州工業大学に進学し、大学4年生のときに人工衛星（FUTABA）打ち上げのプロジェクトリーダーになったことをご縁に、共同開発という形で敬愛理科研究部も参加することができました。人工衛星はほぼ完成し、今年度中に打ち上げが予定されています。宇宙空間に出れば、敬愛生がはんだ付けをした紫外線量を測る装置のデータが送られることになります。宇宙空間と地球上での紫外線量の違いから、オゾン層などの地球環境の大切さや紫外線量を分析してわかることを研究できるようになります。打ち上げの日程などが分かり次第、ブログなどでも紹介致します。

理科研究部では、ものづくりやプログラミングやプレゼン発表に力を入れて取り組んでおり、様々なコンテストなどに出場しています。理科が好きな生徒は楽しめる部活動です。一緒に取り組んでみたい人は、参加をお待ちしています。



今年度に打ち上がる人工衛星



卒業生大谷さんと理科研究部部長の篠崎さん



人工衛星完成披露会の参加メンバー

敬愛中学校・敬愛高等学校 2022年度入試日程

敬愛中学校

入試日 **1/6 木** 一般入試
自己推薦入試

- ◇出願期間 12/10 (金) ~ 12/17 (金)
- ◇合格発表 1/8 (土)
- ◇手続日 (自己推薦) 1/11 (火) ~ 1/13 (木)
(一般) 1/11 (火) ~ 1/19 (水)

※英語検定・漢字検定加点制度有り

- 英語検定 4,5級 5点 3級以上 10点
- 漢字検定 5,6級 5点 4級以上 10点

特進コースに適性試験型入試を導入 **new**

自己推薦入試

一般入試

教科試験型

国語・算数・面接

教科試験型

国語・算数・社会・理科

選択可能

選択可能

適性試験型

適性試験・作文・面接

適性試験型

適性試験・作文

敬愛高等学校

入試日 **1/21 金** A 推薦入試
B 推薦入試

入試日 **2/2 水** 一般入試

- ◇出願 1/7 (金) ~ 1/12 (水)
- ◇合格発表 1/25 (火)

- ◇出願 1/7 (金) ~ 1/12 (水)
- ◇合格発表 2/8 (火)

※英語検定・数学検定・漢字検定加点制度有り

- 英語検定 3級 5点 準2級以上 10点
- 数学検定 3級 5点 準2級以上 10点
- 漢字検定 3級以上 5点

インターアクトクラブ地域活性化への取り組み



地元応援フェスで販売の様子

清掃活動の様子

敬愛高校インターアクトクラブは、昭和50年、門司西ロータリークラブの提唱により設立されました。現在は、20名のメンバーが在籍しており、日々の活動に取り組んでいます。主な活動としては、

- ・月に一度の例会（ロータリアンの先生方と敬愛の生徒が交代で卓話をしています。）
- ・JR門司駅前や学校周辺の清掃活動
- ・チャリティ募金活動
- ・食育講座の開催
- ・幼稚園でのバザーの手伝い、絵本の読み聞かせなどのボランティア
- ・他校との親睦交流活動

などがあります。

コロナ禍で、近年は思うような活動ができませんでした。皆でアイデアを出し合ったりして、出来ることを増やしています。新たな活動として地元の商店街のイベントのお手伝いをしたり、地域貢献活動の一環として、学校で物品の販売をしたりしています。

実現することが難しいことも多いですが、やりがいを感じながら活動できています。今後も地道に頑張っていきたいと思っています。